

しょうがくせい みな
小学生の皆さんへ

きょう はなし せい
今日のお話は、聖マグダレナ・ソフィアの祝日を迎えた喜びが心に残る中でお届けしたいと思います。

せんじつ せいしんかい せい けんきゅう
先日、聖心会のシスターで聖マグダレナ・ソフィアの研究をしておられるシスターフィル・キルロイがお書きに

なったものを読み、改めて大事なことに気づかされました。聖マグダレナ・ソフィアが生きておられた 1779

ねん ねん かくめい ちから しゃかい か
年～1865年というのは、フランス革命(力づくで社会を変えようとする)が起こった大変な時期でした

が、85年の生涯のほとんどは革命の連続で、フランスでは争いが絶えなかったということ、さらに、コレラ、

てんねんとう けっかく つぎつぎ おそ かんせんしょう ひと びょうき たたか
天然痘、マラリア、ジフテリア、そして、結核と、次々と襲ってくる感染症(人にうつる病気)との闘いであった

ということがわかりました。

そんな時代にヨーロッパを駆け巡り、14ヶ国で学校を始めたとは、信じられないようなことです。そのエネルギー

ギーはいったいどこからきたのでしょうか。亡くなった 1865年には、84 の寄宿学校と 74 の併設校(貧し

い子どもたちのための学校)があったのです。そして、亡くなる直前まで、「学習指導要領(学校で教えるこ

とをまとめたもの)をもう一度考え直す必要があります。」と、時代の変化の中で聖心の教育があるべき姿

を探し求め続けた聖マグダレナ・ソフィア。

ローマのヴィラランテにある聖心会のアーカイブ(資料室)に、聖マグダレナ・ソフィアの絵が掛けられています。

2年前に訪れた時、初めて見るお顔に、ずいぶん強い印象を受けました。ふつう、聖人には頭の後ろに

ひかり えが
光が描かれているのですが、その絵には何もありません。つまり、人間としてのマグダレナ・ソフィアを描いた

たものなのです。アーカイブの責任者のシスターは、このお顔が実際に一番近いと思われるとお話ください

ました。

人間マグダレナ・ソフィアの悩みと苦しみを秘めた深い愛情と信仰を感じさせられる瞳が印象的です。

わたしとかけ離れた方ではなく、そばに行ってお話を聞いてほしくなるような、そんな温かみをたたえておら

れます。常に病気がちであった一人の女性が、激しい変化のある時代に、新しく誕生した修道会をまとめる

そうちょう かつかず がっこう せわ かんりしゃ あま
総長として、また、数々の学校のお世話をする管理者として、余すところ

なくご自分を捧げられたのです。皆さんは、この方につながって、この

がっこう まな
学校で学んでいるということ、どうぞ大切にしてください。

